



○ まちがい

1年生の「子どもと造形Ⅱ」の授業に参加してみました。今年度初めての講義なので講師の先生とも初顔合わせです。この時間には教科書を使った座学と実際にものづくりをする造形活動があります。限られた時間に両方を学ばなければなりません。授業の進め方には工夫が必要です。

この時間ではルネサンス期から現代までの造形教育史の内容12ページくらいを学習する予定でした。全員一斉に1ページから読んでいくのではなく、4班に分かれて担当したページのポイントをまとめ、全体に発表しながら歴史を把握させるという方法がとられました。調べる段階では個人作業ですが、発表の場面ではプレゼンテーションも必要です。皆意欲的に取り組んでいました。

ところで、このときに思ったこと。教科書を朗読する場面です。読めない漢字が出てきたときに学生たちは焦っていました。それは当たり前の心理ですね。ただ読み進めていくにつれ、「また読めない漢字が出てこないだろうか。」という気持ちが大きくなってきていると感じました。そうすると文章の内容に集中できず、表面的に読み終えるだけのことに労力を費やしてしまいます。

よく言われることですが、学校は間違えるところです。恥をかくことを恐れずに学びの本質から外れないようにしてほしいものです。そのためには周りの寛容さも大切です。仲間の表面的な失敗はすぐに水に流してほしいと思います。実は教科書の中にも誤植がありました。私にもいくつか読めない漢字がありました。完璧な人間ならば勉強する必要はないですね。

姉妹校自賛

徳山のYICキャリアデザイン専門学校が大道理のシバザクラを鑑賞する活動を行いました。私はそれに途中参加してみました。大道理では地域おこしの一環で弁当を作っておられますが、当校がパッケージデザインを手掛けているなど当地との交流もあります。

「山笑う(やまわらう)」という俳句の季語があります。春の山の明るい感じを表現した語句です。大道理では山も笑い、シバザクラも笑い、鑑賞に訪れた人たちも笑顔がいっぱいでした。私個人としてはたくさんの再会があり(ビックリ!)、感動ももらいました。

